

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300011		
法人名	有限会社 富喜		
事業所名	グループホームありがとう		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1020-2		
自己評価作成日	平成28年 8月30日	評価結果市町受理日	平成28年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年 9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の認知症の症状の進行を緩和し、安心して日常生活を送ることができるよう、入居者様の心身の状況を踏まえ、妥当適切に行います。また、入居者様一人ひとりの人格を尊重し、入居者様がそれぞれの役割をもって家庭的な環境の下で、日常生活を送ることができるよう配慮し入居者様が真実願っていることに一つでも多くの明かりが灯せるよう、安心して安らぎと喜びのある生活の中で、お互いが笑顔で「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えあえる日々を過ごしていただけるよう自立した生活が営めるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では今年度から衛生感染症委員会や災害防犯対策委員会を立ち上げておられ、職員の意見や提案を、運営に反映させる機会を設けておられる他、職員の意見から今年度より週1回、棟別会議を開催されて、利用者の思いや業務改善に関する気づきを職員が検討して共有され、個別ケアの向上に反映させるよう取り組んでおられます。毎朝、その日一日、利用者がしたいことや思うことを聞かれたり、日頃の関わりから把握された本人や家族の要望に対して、柔軟に対応しておられ、セタバーベキューの実施や家族とホテルでの食事会への参加につなげておられます。職員は利用者には笑顔で優しい声かけをしておられ、ゆったりとした雰囲気の中、利用者の笑顔を引き出すような支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を理解し、日々の入居者様への声掛け・介助時に実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時や全体会議で唱和し、管理者と職員は理念を共有して、笑顔で、お互いに感謝し合える関係づくりをしながら、日々の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の身体面考慮の上、散歩を実施し地域との交流を実践している。 感染病蔓延時期以外には月に一度の交流会を実施し外部団体及びデイサービスご利用者様との交流を実践している。	自治会に加入し、利用者と職員は一緒に地域行事の祭りに参加したり、地域の300人以上の参加を得て開催している法人主催の祭りに参加している。デイサービスと合同交流会を月1回開催し、来訪しているボランティア（歌、お茶、大正琴、コーラス、フラダンスなど）や参加した地域の人、デイサービス利用者と交流している。ガールスカウト(小中高生)や中学校の職場体験、高校のボランティアクラブ(10人程)の来訪がある。日常的に散歩に出かけ、地域の人と挨拶や会話をしたり、野菜や花の差し入れがあるなど、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、ボランティアによる交流会、デイサービスありがとうの通所利用者様との交流会、ありがとう祭り、毎日の散歩等積極的に参加している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	会議等で自己評価の全員に配布を行うとともに、外部評価や日々の記録の重要性・法令遵守の実践の必要性和意義を伝えており項目ごとに全員で意見交換や見直しをしている。	全体会議や棟別会議で管理者が評価の意義について説明し、項目ごとに意見交換をしている。自己評価は全職員に評価のための書類を配布し、管理者と相談しながら記入したものを、管理者がまとめている。前回の外部評価結果は全職員に配布しているが、それをふまえた話し合いはしておらず、評価の取り組みが十分に活かされているとはいえない。	・評価を活かす取り組み	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の開催で入居者・行事等の近況報告、風水害・火災避難訓練等の報告。	会議は2ヶ月に1回開催し、状況報告や行事等の活動報告、避難訓練等の報告、外部評価報告などを行っている。今年から書記の職員をおき、記録の充実を図って、意見をサービス向上に活かすよう努めている。毎回家族の参加を促し、消防や警察に参加の呼びかけをしているが、メンバーの拡大にはつながっておらず、会議の内容を広げるには至っていない。	・会議を活かす取り組み ・議題の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類等は高齢福祉課に直接持っていく、常日頃からお互い情報交換等をするように配慮している。	市担当者とは、運営推進会議の他、提出書類を持参して相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議で、情報交換や意見交換をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長・管理者・主任が地域包括等が開催している研修等で正しく学び、職員と一緒に検討し理解をして実践している。	運営者や管理者が外部研修を受講し、朝礼で伝達したり、全体会議や棟別会議で職員が話し合っ身体拘束しないケアに取り組んでいる。マニュアルがある。玄関の施錠はせず、外出したい人とは一緒に散歩するなどしている。スピーチロックについて気になるころがあれば、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待防止の研修を行い、虐待をしない・させない・見過ごさないを考え日々サービスをしている。また、疑わしきは管理者への報告を行い全体での検討・改善を実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や書籍にて職員は理解しているが、現在の入居者の中では必要と思われる人はいない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時を含め、本人・家族にそのつど十分な時間をかけて丁寧に説明を行い理解納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・意見の窓口を設け相談・苦情があった場合は即時対応を行い再発防止の為に会議等にて全体周知を実践している。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見を聞くため全家族に運営推進会議の案内を出している。法人の祭りに出席時や受診支援、面会時、電話などで家族の意見や要望を聞いている。利用者の要望から七夕バーベキューを開催したり、家族との食事会に車イスで送迎するなど、意見や要望を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月初月末の全体会議と週1回の棟別会議(計3回)を設け職員の提案を検討し、業務に反映できるものは反映させています。	月1回の全体会議や週1回の棟別会議、朝礼時などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で運営者や管理者が意見を聞いている。今年から衛生感染症委員会、災害防犯対策委員会を立ち上げ、意見を運営に反映させる機会を設けている他、デイサービスとの合同交流会や外出行事などの企画など、提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の状況を考慮し、休日確保しやすきように配慮するなど働きやすい環境作りに努めています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会があり、職員の希望等にも配慮して進めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会(実践者研修、認知症介護、精神的ケアなど)を提供している。受講後は全体会議で復伝を行い、職員間で共有している。内部研修は計画的にインフルエンザ、プライバシーの確保、身体拘束、食中毒予防、認知症についてなどについて実施している。新人職員は日常業務の中で先輩職員の指導を受け、半年後に外部の新人研修を受講している。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表又は管理者は県内外の勉強会に参加し、他施設と情報交換や交流を持っている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始より、ご本人ご家族のご意向、思い、不安等を話せる環境を心掛け、スタッフ全体でアプローチし、不安の軽減、関係づくりに努め、不安ない生活に向けて支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族より、在宅での様子や困っていることなどをアセスメントを行い、要望をこれからの生活で実現できるようアプローチしモニタリング・考察・再計画を実践している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前ヒアリングからご本人やご家族の思いの中からニーズを聞き、共有する事で自宅と同様の毎日が送れるよう柔軟な対応をしている。ご家族、ご本人にとってより良い環境があれば他事業所等と連携し、他のサービス機関につなげている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、入居者ともに生活の中で関係づくりに努め、日々の目標を原則ご本人に決めて頂き職員が達成可能に向け支援をしている。また、発語困難なご利用者様におかれましてもご家族意向の下、日々の生活を行っていただいている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を特に設けず、いつでも面会が出来る環境にしており、ご本人とご家族の関わりがいつでもとれるよう支援している。また、毎月様子を文書でお知らせし、面会時には分かりにくい変化もお知らせしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に出かけたり、今まで行かれてたパーマ屋に行ったり、地域の中での生活を維持できるようサポートしている。受診や買い物には、出来るだけご家族とともに外出し、不安な生活を送れるよう支援している。	家族の面会、親せきの人や友人、知人の来訪を支援している。馴染みの深い地域の祭り（桜祭り、ランタンナイトフェスティバル、納涼祭など）や選挙の投票、行きつけの美容院や商店の利用などの外出支援を行っている。法人主催の祭りや合同交流会で馴染みの地域の人と交流する機会を設けている。家族の協力を得て、自宅での法事やホテルでの食事会への参加を支援している。毎月、写真や文書で家族に利用者の様子を知らせるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい方が入居された時には、席替えを行い誕生日会などで親睦会を計る。入居者同士の関係づくりやつながりを深め、よりよい環境づくりを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護保険を含めた総合的な相談を受けることが出来ることを伝え、継続的な関わりが持てるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から希望や要望を取り入れ朝、夕の申し送りや会議で職員全員で共有できるように努めています。また、困難な場合はご家族からお話を伺いご本人の視点で検討致しております。	入居時のアセスメント（生活履歴や好みなどの基本情報）の活用や、日常のケアの中で、本人の言動や表情から思いや意向の把握に努めている。毎朝、本人からその日にやりたい「本日の目標」を聞いている。今年度より週1回、棟別会議を開催して気づきを職員が共有し、個別ケアの向上に反映させるよう取り組んでいる。職員は個別記録を参考に全体会議や棟別会議で思いや意向を検討し共有している。困難な場合は家族に聞いて、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをし、ご本人、ご家族からプライバシーに配慮し、可能な部分を伺っています。また、他者との会話の中からも生活歴を把握するよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、睡眠、入浴、排泄お一人おひとりの日常生活を把握し、身体状況に応じてその方らしい生活が出来るように職員が共有し支援しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関して担当者会議や職員会議を通して話し合いをしている。より良い生活を送っていただく様に前向きな意見やアイデアを取り入れ計画書作成に努めています。モニタリングも1カ月に1回行う事としています。	管理者や計画作成担当者、職員、家族、本人が参加する担当者会議を開催し、主治医の意見を参考に、本人や家族の思いや意向をを参考にし話し合い、介護計画を作成している。長期計画を1年、短期計画を6ヶ月として月1回モニタリングを実施している。本人の状態や要望に沿ってその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間記入の個別記録をもとに、食事、水分摂取量、排泄状況等、職員全体で把握、確認を行っている。朝・夕の申し送りです小さな事でも気づきとして上げ補足して情報の共有に努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりを支えるためにご本人、ご家族の要望を柔軟に対応し施設の中に家族が休める場所を設けて支援を行っています。通院等の支援も医療連携のもと安心して生活が送れるようサービスの多様化を図っています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみのある地域の中で安心して生活できるよう、地域の方、ボランティア、消防署と協力しながら支援を実施しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅から継続でかかりつけ医への診察へ家族や職員と出掛ける事が出来る関係づくりを行っているまた、月に1～2度、協力医やかかりつけ医が往診に来て、緊急時の対応を安全な対応が図れるように支援しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医に、家族の協力を得て受診支援し、家族から希望があれば他科を含めて事業所が支援している。協力医療機関から月1回、他のかかりつけ医が月2回往診に来訪している。受診結果は必要に応じて家族に電話で連絡し、職員と共に共有している。緊急時は看護師やかかりつけ医と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいつでも対応できる環境にあり、介護職は日々の変化や小さな変調も報告、その都度指示を得ています。看護師も主治医より必要に応じて指示を得て連携を行っております。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、ホーム長、ケアマネもしくは看護師がカンファレンスに同行し、主治医からの指示、病棟での様子情報収集に努め、病院、ご家族との連携を行っています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や重度化、終末期に備えてご本人やご家族のお気持ち等確認しながら話し合いをし、協力医や主治医とは急変時いつでも対応できるよう連携をとっています。	契約時に指針を基に本人や家族に事業所でできることを説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や主治医と相談し、移設を含めて方針を決めて共有している。職員はターミナルケアの勉強会をして、要望に合わせた看取りのケアができるよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、職員全員が手順通り行えるようになっている。事故報告書は会議でも取り上げ再発しない環境になるように努めている。ウィルスや感染症の予防、対応は看護師が指導する事により分かりやすく実践できるように取り組んでいる。	事例が生じた場合は、その日の職員がヒヤリハット報告や事故報告書を作成し、管理者に報告して全体会議で再発防止について検討している。マニュアルがあり、必要に合わせて看護師が随時、職員に指導している。消防署の救急救命講習を3人の職員が受講しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを作成し、年2回防災訓練を開催しています。地域の方にも参加をしてもらい、協力体制をとっております。非常食も備蓄して対応しております。	防災マニュアルがあり、年1回、消防署の協力を得て昼夜を想定した消火、通報、避難訓練を利用者も参加して行っている他、年1回、風水害地震対応訓練を行っている。地域の人も緊急連絡網に入り訓練に参加している。関係機関と話し合い、事業所を地域の一次避難所とし、非常用食料の備蓄などに取り組んでいるなど、地域との協力体制を築いている。	・地域との協力体制を築く取り組みの継続

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者との関係が成熟し、お互いに慣れてきて、年長者として、経験豊富な方々であることを忘れず、お声かけには、注意している。	外部研修で接遇や人格の尊重などを学び、内部研修で全職員に復伝している。職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしており、気になる対応があれば、管理者が注意をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の積み重ねの中で、信頼関係を構築し、何気ない会話の中のニーズを見落とさないよう努力している。個別に、買い物の日等の目的に応じた外出時間、職員がゆっくり関わられる時間を持っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等においても時間を決めず、一人ひとりに柔軟に対応している。入浴も毎日入浴するできる環境にしており、ご本人の体調や気分を確認しながら対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院にもホームに出向いてサービスをしてもらったり、パーマ等もかけに地域の美容院に出かける支援をしている。衣類も自身で選び、アクセサリ等も選んでつけることが出来るようお声かけしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理の下ごしらえや後片付け等一人ひとりの力に合わせ職員が行い、楽しい食事になる様にしている。	昼食は法人の配食を利用し、朝食と夕食は、利用者の好みを聞き、差し入れの食材などを活用して献立を立てて事業所で調理し、利用者の状態に合わせた形状で提供している。利用者は下ごしらえや台拭き、箸置き、配膳などできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルで同じものを食べて会話をしながら食事を楽しんでいる。誕生日は本人が一番食べたいものを聞いて提供している。月1回のおやつづくり(たこ焼き、ホットケーキ、たい焼きなど)や季節の行事食(そうめん流し、七夕バーベキューなど)、家族の協力を得ての外出など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは入居者の皆さんと一緒に考え、好みにあった物を提供できるよう支援している。また、水分量、食事の摂取量等は不足しないよう、一日を通して、職員が把握し、記録し、適宜提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、パタカラ等口腔体操を職員と一緒にやっている。食後の口腔ケアにおいても、毎回、職員見まもり支援のもと、口腔ケアをしている。夜間は、義歯の洗浄を行い、保管している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄の把握をしている。尿意、便意等あらわれる方が多いため、トイレ誘導し、安全に排泄できるよう支援している。	個別記録で排せつパターンを把握し、プライバシーに配慮した声かけや誘導をしている。ウォシュレットを利用するなど一人ひとりに合わせて、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、毎日ヨーグルトを提供したり、食物繊維を多く含む食材を食事に取り入れる等気をつけている。ただ、糖尿病に起因する病状の方や食品アレルギーに方も入居しておられるため、個々に対応し、食事だけでなく、運動等取り入れ働きかけをしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望により寝具等も馴染みのものを持ち込んでいただき、ご本人様が安心できる居室作りをしている。日中の活動も体調に合わせて参加できるよう支援し、安眠、良眠出来る環境づくりを心掛けている。	入浴は毎日、13時30分から17時までの間可能で、本人の希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。本人の好みの洗顔料やボディソープを使用し、その人の状態に合わせた浴室用介護チェアの使用や機械浴、シャワー浴、足浴、部分浴などの支援を行っている。利用者は職員との対話を楽しみながら入浴している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員全員が、薬の情報を把握し入居者が体調、服薬等に不安なことは、直接看護師が入居者に説明し、必要に応じて主治医相談を行い安心して服用できるよう支援している。服薬も職員が2人で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の情報を把握し投薬表も設置している。入居者が体調、服薬等に不安なことは、直接看護師が入居者に説明し、安心して服用できるよう支援している。服薬も職員が2人で確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が張りのある充実あるものになる様、生活歴や今までの役割等を引き続きできるよう季節毎の花植え花の手入れ花壇等の手入れや家事活動、レクリエーションや認知症機能低下予防の為の学びを取り入れている。	福笑い、節分、ひな祭り、七夕バーベキュー、そうめん流し、花火大会、敬老会(仮装)、ありがとう感謝祭(ファッションショー)、クリスマス会、忘年会、紅白歌合戦、カラオケ大会、月1回の合同交流会、誕生日会、みんなでクッキング(ぜんざい、お団子)、月1回のおやつづくり、ラジオ体操、ワハハ体操、ゲートボール、足ボーリング、卓上バレー、脳トレ、サイコロころがし、歌を歌う、テレビの視聴、新聞や雑誌を読む、編み物、生け花、リースづくり、習字、花壇の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、来訪するボランティアや小・中・高校生との交流など、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等に応じて散歩や買い物ドライブ等に臨機応変に出かけることが出来るようにしている。ご家族との時間も大切にもらい、家族旅行、外食、お墓参り等、施設が提供するだけではなく、家族と一緒に自宅への一時帰宅など希望や要望の応じられるように支援している。	初もうで、お花見ドライブ(市役所の桜並木)、法人主催のありがとう祭り、地域の祭り(桜祭り、ランタンナイトフェスティバル、納涼祭など)、選挙の投票、行きつけの美容院や商店の利用、図書館、近隣の散歩、家族の協力を得ての一時帰宅や法事への参加、外食など、利用者の希望に添って、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や、ご家族と相談しながら、お金を預かっている方もあるし、自身で管理しておられる方もある。買い物の際に、安心して使えるよう見まもり支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、電話等が使用できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースでは、季節感を感じて、穏やかに過ごせるよう切り花等を入居者の皆さんに生けてもらったりしている。清潔感のある環境を心掛けている。	リビング兼食堂は窓から明るい陽ざしが差し込んでいる。差し入れの花を利用者が思い思いに生け、室内を華やいだものになっている。オープンなアイランドキッチンからの食事の準備や片付けの音や匂いがして生活感がある。木の温もりを感じる広い室内に食卓や椅子、テレビ、ソファなどをゆったりと配置し、利用者はお気に入りの場所でくつろぐことができる。空気清浄機や加湿器なども設置し、温度や湿度、換気、清潔に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者全員が座れるソファースペースで思い思い過ごされたり、読書をしたり、書き物をされたり、話したりとリラックスできる環境づくりをしている。また、ソファーに関してもご本人様の身体的負荷のかからない様に2種用意している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる居室になるよう、馴染みのものをご家族やご本人に持ち込んでもらっている。衣替えシーズンに関してもご家族の協力を得てご本人様の混乱なく生活して頂けるよう配慮している。	寝具、テレビ、机、いす、小箆筥、衣装ケース、衣装ハンガー、雑誌、日用品など、本人が使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、ぬいぐるみ、家族の写真、若い頃の写真、手芸作品、千羽鶴、リース飾り、手づくりカレンダーなどを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の皆さんが、安心して楽しく生活できるよう、生活環境を整えるよう努めている。目印等を邪魔にならないよう配置し、尊厳を持って生活が送れるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームありがとう

作成日：平成 28 年 12 月 6 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が応急手当・緊急時の初期対応が出来ているが、全職員が応急手当・緊急時の初期対応の実践までには至っていない。	全職員が応急手当・緊急時初期対応等の実践力を身につけるまで、定期的な施設内外の訓練、研修を継続して行えるようにする。	・当施設の看護師による緊急時の初期対応定期訓練及び研修。 ・消防署が行う救急救命講習の受講。	12ヶ月
2	36	地域との協力体制の構築するための取り組み。	火災・災害時における地域との迅速な協力連携が行いえる組織作り。	・自治体の会議の出席や回覧板等の活用。	12ヶ月
3	5	議題の工夫。	議題がマンネリ化しないための工夫をする。時事ネタやホーム内の困難事例等の報告等も増やして充実した内容にしていく。	・運営推進会議開催の度にテーマを決め意見が活発に出やすくなるように進めて意見を活かせるようにする。	12ヶ月
4	4	評価を活かす取り組み。	評価を活かせるように取り組む。	日々の支援の中で評価を活かせるところは活かしていく。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。